

教育プログラム・コースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース						
対象者	医学専攻博士課程						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>○放射線治療に必要な腫瘍学、医学物理学、生物学に知識を総合的に習得する</p> <p>○高度で安全な放射線治療を可能とするチーム医療に貢献できる責任感および協調性</p> <p>○希少がんならびに小児がんに対する放射線治療、高精度放射線治療を推進し、新たな放射線治療法の開発を主導できる</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>○希少がんに対する放射線治療の症例が多く、十分な教育が可能。</p> <p>○当院は、最新の高精度放射線治療を施行できる日本放射線腫瘍学会認定施設であり、悪性胸膜中皮腫、肛門管癌、嗅神経芽細胞腫の強度変調放射線治療（IMRT）など、国内でも実施施設の少ない希少がんの特殊放射線治療の教育が可能。</p> <p>○小児がん拠点病院に指定されており、小児がんの症例数が豊富であり、小児がんの放射線治療に関する重点的な教育が可能。</p> <p>○集学的診療ユニットを開設し、小児脳腫瘍ユニットがあり、初診から複数の診療科が治療方針の決定に参画し、綿密な検討の後に放射線治療の適応を決定しており、他科との連携を緊密にしながら、希少がん、小児がんの放射線治療の適応について教育が可能。</p> <p>○小児の頭髪保護を目指した強度変調回転照射（VMAT）による全脳全脊髄照射を行うなど、小児への侵襲の少ない放射線治療の方法の開発に関する指導が可能。</p>						
指導体制	当放射線治療科は、スタッフ8名が配属された大学院生の指導にあたり、全国放射線治療施設の中でも非常に充実した指導体制を取っている。さらに各臓器がんに対して、担当の専任スタッフを配置しているため、きめ細かい指導が可能である。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	1. コース修了後、京都大学にて診療・研究・教育を続ける。2. 各地域のがん拠点病院、がんセンター、大学病院に赴任し診療を続ける。3. 海外の大学、がんセンターに留学し、海外にて最新の放射線治療に関する診療・研究を行い、帰国後日本の放射線治療・がん治療の発展に貢献する。						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医学専攻博士課程	3	3	3	3	3	15
	計	3	3	3	3	3	15